CASE STUDY

社会人をターゲットに地域のリーダー人材を育成

宇都宮大学

地域連携の主軸を、地元の企業人向けの教育に定めた宇都宮大学。学びを力にしたリーダー人材が、地域に活力を巡らせる将来像を描く。

総括理事・副学長 地域創生推進機構長
吉澤 史昭
よしざわふみあき●1989年東京農工大学農学部卒業。1995年同大学大学院連合農学研究科修了。岩手県立大学盛岡短期大学部講師を経て、2000年宇都宮大学農学部助教授、2008年同教授。2021年より現職。

「教育」で企業とつながり社会人向け講座を拡大

理事就任時、私は教育を介した地域連携をさせてほしいと願い出ました。地域の企業の多くは中小規模で、コスト面でこれ以上、研究での連携を開拓するのは難しい。しかし、教育であれば、どんな企業にも需要があると見込んだのです。例えば、県の基幹産業の自動車産業は、電気自動車の台頭により先行きが不透明なため、新事業や起業を考える人にとっては新たな学びが武器になります。18歳人口減少に加え、自治体も企業も東京に顔を向けがちなエリアで、社会人教育こそ自学の存在価値を示すチャンスだと考えました。

本学の地域創生推進機構には、2つの支援組織と、全ての連携・共創の窓口となる組織があります。今、力を入れているのが、社会人教育「宇大アカデミー」のうち、地域のリーダー育成を担う「宇大未来塾」の拡充です。MBAの入門編にあたるプログラムや、経営層向けの徹底した議論のプログラムなどを提供しています。さらに、地域の経済団体の求めに応じて「データサイエンス・DXプログラム」も開講。これらの講座で、スキルアップを望む企業人、自治体職員が学んでいます。

需要は予想以上に高く、起業やMBA取得に挑戦する修了生が現れたほか、研究の価値を知った企業人からは共同研究の申し出も受けています。近隣の自治体からの引き合いで、プログラム自体の有償提供も始めました。地域連携事業の独立採算化に向けた一歩です。

社会人博士の育成は地方大学の役目

地方の中小企業が持つ技術や知見は、単体では大きな成果を出しにくいものです。しかし、大学がハブとなってそれらを組み合わせると、大きなインパクトをもたらす可能性が生まれます。人的な交流もイノベーションの源泉です。大学はフラットな場なので、参加者は気兼ねなく交流できます。

自治体の参加者からも企業や大学と関係を深められる点が好評で、それは大学にとっても意義があります。地方大学対象の国の交付金には自治体を申請主体とするものがあるため、自学に適した支援を得るには、自治体との日頃からの意思疎通が重要だからです。

国は現在、博士号取得者3倍増を目標とする「*博士人材活躍プラン」を進めています。社会の発展のために、高い専門性と汎用的能力を持った人材の育成を強化するものです。それは、まさに中小企業と関係を築きやすい地方大学の役目ではないでしょうか。ただ、一大学で賄える分野には限りがあります。そこで、宇大未来塾をベースに社会人向け大学院を設置し、本学のノウハウを他大学と共有して、「大学院リーグ」に発展させる構想を進めています。

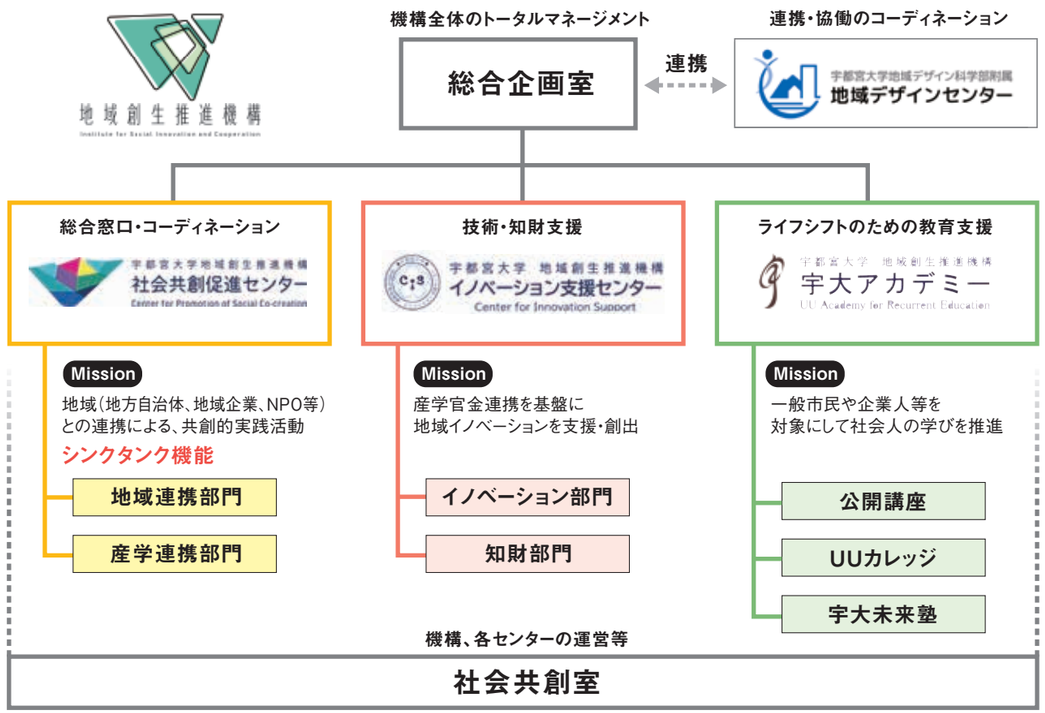
大学がオープンイノベーションの拠点となるには、多様な背景を持つ人がさまざまな角度からアイデアを出し合う創発的なキャンパスづくりが必要です。理想は、大学と地域の一体化。企業人や自治体職員のほか、多様な人々をキャンパスに呼び寄せて学内を活性化させ、より多くの知識や技術を地域に還元する。その結果、地域の魅力も増し、さらに人が集まるという好循環をめざします。

*2024年3月に、文部科学大臣を座長とする「博士人材の社会における活躍促進に向けたタスクフォース」にて「博士人材活躍プラン～博士をとろう～」が取りまとめられた

取材・文／児山雄介　撮影／髙橋徹

キャンパス／栃木県宇都宮市　学生数／5,165人（県内出身学生比率 約30%）
理念／人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する
学部／データサイエンス経営、地域デザイン科学、国際、共同教育、工、農
大学院／地域創生科学、教育学、連合農学
THE 世界大学ランキング2025／1501+位、同日本大学ランキング2023／=71位

地域創生推進機構の組織図



注目！ 地方国立大学が手を組む「大学院リーグ」で日本の博士人材像の転換を図る

大学院リーグは、地方国立大学のネットワークを使って大学院生、特に社会人博士を育てる試みだ。推進主体は宇都宮大学と、北陸先端科学技術大学院大学、高知大学。内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）*に採択されている。連合大学院や共同教育課程は同じ分野での連携だが、本リーグは異分野の大学院が連合する点に特色がある。「宇大未来塾」のプログラムを基に構築する教育モデルを参加大学間で共有し、「総合知」を身に付けた教養人を育成する構想だ。三重大学、香川大学、小樽商科大学の参加も内定、最終的に10大学程度をめざす。

同リーグの構想では、宇大未来塾などの参加大学院が開講する履修証明プログラムを修了すると大学院の単位を付与し、参加大学院入学後に既修得単位としての読み替えを可能にして入学後のスクーリングの負担を軽減するしくみや、修得単位をリーグ間共通認定として、転勤になっても転勤先の大学院で単位を取れるしくみなどを整え、社会人の学びを継続しやすくする。

大学院リーグへの展開

※同色の項目は互換性を持たせて発展

実施中　宇大未来塾

とちぎ志士P	データサイエンス・DXP
次世代経営マネジメントP	ニューフロンティアP

※Pはプログラムの略

↓ 単位認定

2026年度予定　地域創生科学研究科総合情報学専攻*

導入科目（大学院リーグ共通）	特別研究・特別演習
専門科目	総仕上げ科目（大学院リーグ共通）

*2026年度開設予定・仮称

↓ 大学院リーグへ展開

構想中　大学院リーグの研究科

導入科目（大学院リーグ共通）	特別研究・特別演習
専門科目	総仕上げ科目（大学院リーグ共通）

*「共創的実践で社会を変革する博士人材育成プログラム－大学院リーグのプロトタイプと実装－」